



論説

道路政策轉進の一路

水野 鍊 太郎

乾坤一轉歲華茲に改つて昭和九年を迎へたのである。吾人は先づ皇太子殿下の聖誕を壽ぎ奉るの光榮に浴したるを悦ぶと共に九千萬の我同胞と共に光輝ある國史の成跡に鑑み更らに一段の忠誠表現に精進せざるべからざることを痛感するものである。

顧みるに昨八年は外交に内政に財政に洵に多難多事の一歳であつたが國家の財政難も國民經濟の不振も外交上の不安も國防上の危機も思想の混亂も一として未だ其の解消を見ざるのみならず否寧ろ此等の諸問題は却つて益々其の深刻と重要性とを増加するの傾向があると言はなければならぬ。即ち斯る情勢は未解消の儘本年に持ち越されたのである。故に吾人國民は上下一致して之に對處すべきの覺悟と努力とを致さなければならぬのである。

然らば吾人の覺悟すべき要點は如何であるか、固より各方面に涉りて汎く深思熟考せねばならぬ問題であるが最も吾人の生活に必須的關係を有する道路政策に就て所懐を述べんに我國最近の道路政策は大正八年の頃原内閣時代に於て樹立せられたるものであつて爾來十有五年の星霜を経たのであるが此劃期的政策も尙未だ完成を告ぐるに至らずして今日に及んだのである然るに社會各般の事情は急速度を以て變遷したので更らに新政策を確立しなければならぬ時運となつたことは敢て言を費すの要がない。

仄聞する處に依れば政府當局に於ても此に鑑みる所があつて昨年八月新に土木會議を設置せられ、道路改良計畫に關しては大正八年道路會議の議を経て決定する所あり爾來其の方針に基き全國幹線道路の改良に努め來りたるも未だ以て十全なりと云ふ能はず然るに近時急激に普及發達せる自動車の機能を十分に發揚せしめ以て産業の振興に資するの緊切なるものあり依て曩に樹立したる道路改良計畫を改定し國道の改良工事を國に於て施行すると共に之と相竝んで地方重要幹線道路の改良を促進するの要ありと認むとの主旨を以て國道改良費四億四千八百七十六萬八千圓特殊國道即ち軍事國道の改良費八百四十萬圓府縣道改良費補助二億六百二十六萬七千圓補助費七千五百八千圓事務費二千五百六十九萬七千圓合計七億三千十四萬圓の國費を向後二十年間に支出して延長六千九百三籽の國道に改良を加へ未改良軍事國道は延長二百七十五籽を改良し府縣道中未改良延長一萬七千三百六十籽の改良費六億千八百四十萬圓に對し其の三分の一を補助して之が完成

を圖り且既成改良の國道府縣道に對しては其の債務支辨資源の補助に充てんことを企て之が計畫案を提出して審議を求めたとの事である。土木會議に於ては之に對して如何なる答申を爲すかは固より窺知することを得ないが産業の開發自動車の發達其の他交通量の激増は勿論國防上の必要に迫られて國道府縣道等の改良完成を促進しなければならぬことは敢て豫想に難からぬのである。故に土木會議に於ては慎重審議を盡して少くとも現今及近き將來の國勢に適應するの成案を作成して答申するであらうと信ずる。

○

斯くの如く道路政策の更新に關しては政府當局既に其の歩武を進めつつあることは吾人の頗る欣快を禁ずる能はざる所であるが我國の財政力は果してかゝる新計畫に對して之を實行するの餘力ありや否世上傳ふる所に依れば明九年度の歲計豫算の編成に際して種々論議せらるゝ所あり國防第一主義を以てするの方針を立て軍事費以外の新規要求は殆んど之を認めざるに至つたのである。我國近時の情勢は或は斯る方針の下に財政を按配しなければならぬので閣臣の苦心少からざるものあるは推察するに餘りある所である。果して然らば假令土木會議に於て適切なる政策を議定し政府當局之れを實行せんと欲するも不能に歸するであらうと思はるゝも財政上の餘力を生ずるに至るまで放任せんか之を交通状態に顧みる時に道路政策更新の斷行は國の財政上の都合に依りて緩和せらるべきものでないことは客年大阪に於て開催したる道路大會參加員の感想に徴す

るも知悉し得らるゝ處である。即ち道路政策の更新と其の實行とは國力充實上から忽諸に付すべからざる事案であつて他の事情の如何に拘はらず之を敢行しなければならぬことと思惟するのである。

○
 國の財政上新道路政策を實行するの餘力なきに之が實行は焦眉の急務なりとするに於ては吾人は之に關して如何なる對策を執るべきか、其は唯國民一體が自力更生の實を擧ぐるの一路あるのみである。或は財力なくして何の自力更生かと謂ふものあらん。素より事業の遂行には財力を要することの明白なることは言を俟たないも凡そ事の成否は精神の振否に在る而かも國民共同一致して生活力擴充の策を講ずるに於ては所謂衆力功ありと謂ふべきである。畏くも客年三月二十七日を以て煥發せられたる大詔に「協戮邁往以テ此ノ世局ニ處シ進ミテ皇祖考ノ聖猷ヲ翼成シ普ク人類ノ福祉ニ貢獻センコトヲ期セヨ」と宣り玉せられた、之れ實に非常の時難に遭遇したる吾人の執るべき覺悟であらねばならぬ、此の覺悟を持して淬勵努力するに於ては新道路政策の實行は期して待つことを得ると確信する。